

学生寮お茶大 SCC (Student Community Commons) における調査報告と活動実践

三浦憂紀

お茶の水女子大学 学生・キャリア支援センター

Survey report and activities of the Ochanomizu University student dormitory - the Ochadai SCC (Student Community Commons)

Yuuki MIURA

Ochanomizu University; Student and Career Support Center

This survey reports the current living conditions and satisfaction levels at the Ochanomizu University student dormitory, the Ochadai SCC (Student Community Commons). Moreover, this data aims to improve dormitory management and student support. The primary findings revealed: 1) some students do not understand the dormitory's educational programs before moving in. They require sufficient information in advance. 2) In case problems occur in the dormitory, only 13.8% students affirmed that they would consult the RA (Resident Assistant: a third year university student residing in the dormitory to support junior students). It is important to promote communication opportunities and ensure the RA can be consulted informally. 3) The survey revealed that communication opportunities in the dormitory have increased since the 2011 and 2013 surveys. However, there is insufficient communication between different affiliations. Dormitory students should observe these challenges and resolve them.

keywords : student dormitory, campus life, residence at dormitory

はじめに

お茶大 SCC (Student Community Commons、以下 SCC) は、2011 年に開寮したお茶の水女子大学のルームシェア型の学生寮である。5人で1つのコミュニティ、「ハウス」を形成し共同生活を行っている。SCCでは「共に住まい、共に成長する新しい学生寮」をコンセプトとし、さまざまな学生支援プログラムを通じてコミュニケーション力や協調性などの力を育むことを目的としている。

入寮対象はお茶の水女子大学の学部1・2年生で、入寮年限は2年間である。ハウスでは各自の個室に加え、キッチン、トイレ(2つ)、浴室、リビングを共有している。ハウスメンバーは学年・学部・学科が異なるように設定され、より多くの寮生と交流を行うために毎年度末に居室替えを行っている。また2013年度からは「RA(レジデント・アシスタント)制度」が新設され、2年間の在寮経験のある学部3年生4名

がRAとして引き続き1年間在寮し、下級生の寮生活のサポートを行うという取り組みも実施している。

SCCは2011年の開寮から2017年度で7年目を迎え、寮生の意見を反映しながら、寮生組織や教育プログラムの内容を少しずつ変化させてきた。本調査は、SCC寮生の現在の寮生活の実態・満足度を明らかにすることで、今後の寮運営・学生支援を充実させるための基礎資料とするものである。また、2011年11月に実施された調査(桂,2013)と2013年3月に実施された調査(北澤・望月,2014)との比較も行い、開寮7年目でどのようにSCCが変化してきているかを示す。

調査概要

本調査は、2011年11月にお茶の水女子大学の3つの学生寮(SCC、国際学生宿舎、小石川寮)の寮生を対象として実施された質問紙調査(桂,2013)を参

考とし、2016年1月にSCC寮生（全寮生49名）を対象に質問紙調査を実施したものである。有効回答数は29名（59.1%）であった。調査項目は入寮動機、入寮前の情報入手、施設・設備の満足度、寮の規則の認知度、寮内の対人関係などである。

分析結果

2016年度の調査結果を「基本情報」、「入寮動機」、「入寮前に得ていた情報」、「施設・設備の満足度」、「寮規則の認知度」、「寮内の対人関係」、「寮行事の満足度」の項目ごとに以下分析を行う。また「寮内の対人関係」については2011年度調査との比較も行う。

基本情報

以下では、回答者29名の基本情報について確認する。学年別に示したものがFigure1、学部ごとに示したものがFigure2である。

また、SCC寮生の経済状況を把握するために、大学在学中に奨学金（授業料免除も含む）を受給した経験があるかどうかを尋ねたものがFigure3である。これによると75.9%の寮生がなんらかの奨学金の受給経験があることが示された。

また受給経験のある奨学金の種類を、複数回答可として尋ねた結果がFigure4である。Figure4によると、「日本学生支援機構の奨学金」が44.8%と最も高い割合を示している。

入寮動機

次に、SCCの入寮動機について、7項目（①ルームシェア型の学生寮に魅力を感じたから、②寮費が安いから*1、③大学から近いから*2、④保護者から寮に入るよう言われたから、⑤備品が揃っていたから*3、⑥学修プログラム等SCCの教育プログラムに興味があったから、⑦その他）から最もあてはまるもの1つを尋ねた結果がFigure5である。なお、③大学から近いから、⑤備品が揃っていたからの2項目については回答者が0であったため、Figure5には示していない。

Figure5では、SCCの入寮動機を「ルームシェア型の学生寮に魅力を感じたから」と回答した寮生が最も多く、44.8%である。続いて「保護者から寮に入るように言われたから」と回答した寮生が27.6%、「寮費が安いから」と回答した寮生が17.2%と続く。寮生全員が「寮生活を通して成長したい」という強い希

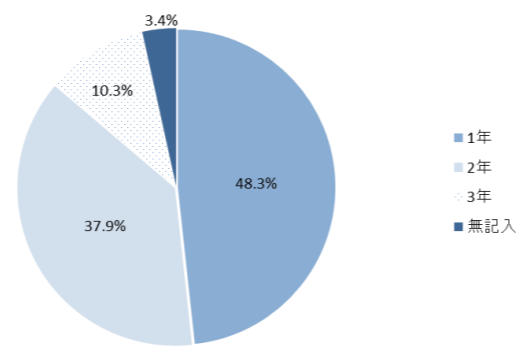


Figure 1 回答者の学年別の割合

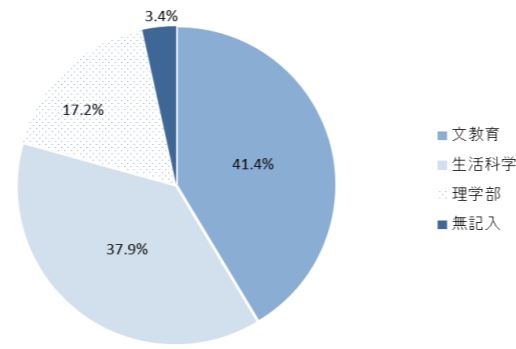


Figure 2 回答者の学部別の割合

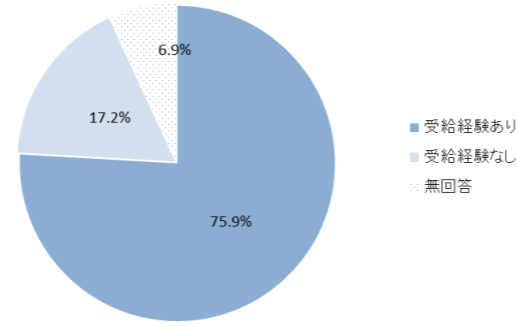


Figure 3 奨学金受給経験者の割合

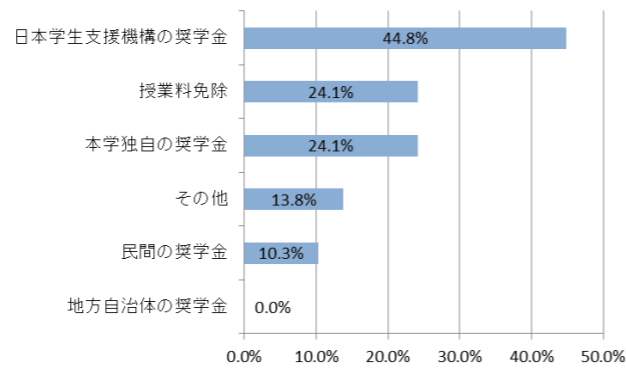


Figure 4 受給経験のある奨学金（複数回答）

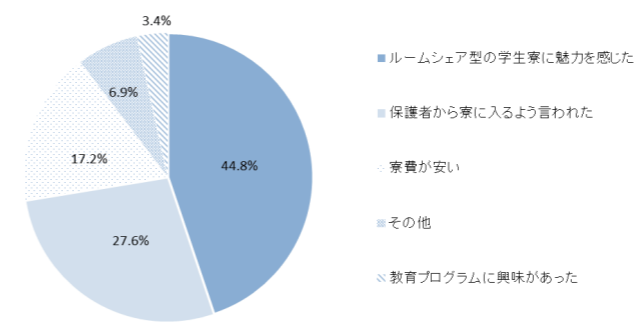


Figure 5 入寮動機

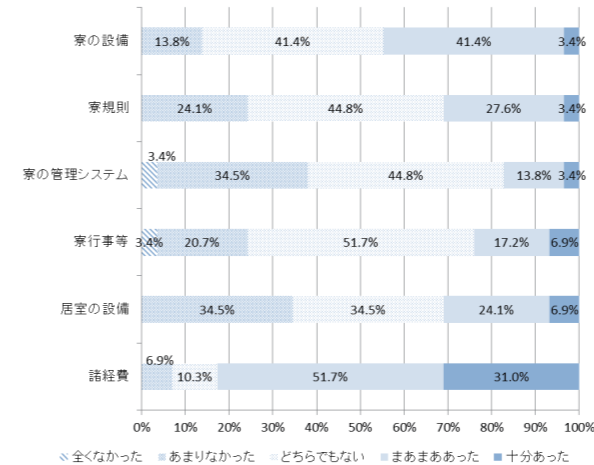


Figure 6 入寮前に入手していた情報

望を持って入寮してくることが理想ではあるが、実際の入寮動機はそれだけではなく、「保護者に言われたから」「寮費が安いから」などのように本人の希望とはいえない入寮動機もみられた。

前述したFigure3で示したように、7割程度の寮生がなんらかの奨学金を受給した経験があることをふまえると、SCCの理念に共感したから、というよりも経済的負担軽減のためにSCCを希望し入寮した寮生もいることが推察される。

SCCの寮費は月額30,000円と周辺相場と比べて低く設定されており、学生の経済的支援の意味合いも持つ。しかしながらSCCはただの住居ではなく、「ともに住まい、ともに成長する」という理念に基づき寮生が成長していくことが求められる学生寮である。このことを学生がよく理解した上で入寮を検討できるような仕組みにすることが重要である。これに関連して、以下Figure6では入寮前にどの程度情報を入手できていたかを示す。

入寮前の情報入手

Figure6では、「寮にかかわる諸経費（寮費、光熱費など）」の情報が「あった」と回答した割合（「十分あった」+「まあまああった」）は82.7%だが、それ以外の項目は「あった」と回答した割合が5割未満である。前述のように、SCCは単なる住居ではなく教育プログラムを実施しているため、それについての情報を事前に入手しよく考慮した上で入寮が望まれる。しかしながら、「寮行事等」について「十分あった」と回答した割合はわずか6.9%であった。

SCCでは入寮申請の際に、SCCについてよく調べたうえで作文を書き、提出することを求めている、ホームページ*4で施設・設備の詳細や寮生組織などを公開、活動報告も随時更新し、SCCの情報を外部に提供することに努めている。しかし今回の調査結果を見ると、実際には、必要な情報が学生に十分に行き届いていないことが示された。

学生が、SCCの情報を十分に入手した上で入寮の検討・申請ができるよう、広報を強化すると共に、申請する前にはよく調べてから申請するように改めて告知する、もしくは告知の方法を改善するなど、新たな仕組みを構築する必要がある。

SCCの情報を広く伝え、入寮希望者に理解してもらうために、2013年度からは受験予定の女子高校生とその保護者を寮祭に招待している。また、2016年度からは寮祭以外でもSCC見学の受付をホームページにて開始した。2017年度にはオープンキャンパスでのSCC施設見学も予定している。入寮を希望する学生にSCC見学の機会を広く設け、SCCの理念・施設についてよく理解した上で入寮を検討してほしいと考える。

施設・設備の満足度

Figure7ではハウス内の施設・設備の満足度について、各自の個室やキッチン、リビングスペースなどの項目ごとに尋ねたものである。

Figure7では「大変満足」の割合が最も高いのは「キッチン」と「洗面台」で31.0%である。これについては、「一般の1人暮らし用の物件と比べてスペースと比べて広い」等の点が満足な理由として挙げられていた。SCCのキッチンにはIHクッキングヒーターが2口ありスペースも広く、洗面台は各ハウスに2つ用意されている。広く使える共有スペースについては寮生の満足度が高いことが示された。

一方で「不満」と回答した割合（「大変不満」+「ま

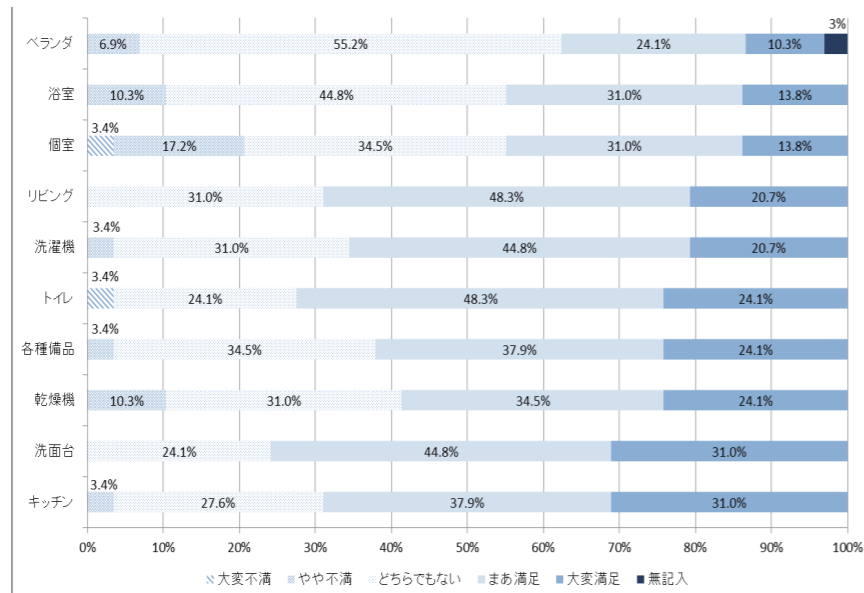


Figure 7 ハウス内の施設・設備の満足度

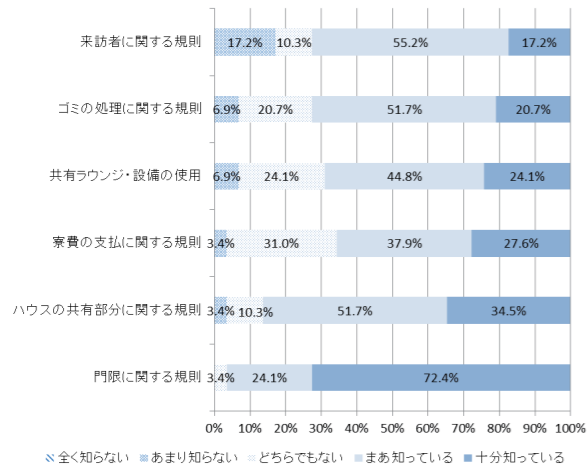


Figure 8 寮の規則・ルールの認知度

あ不満)の割合が最も高いのは「個室」で20.6%であった。この理由については「狭い」という意見が多く見られた。SCCでは各ハウスにハウスメンバーそれぞれの個室が5室用意されており、その広さは7㎡である。机と椅子、ベッド、収納スペース、エアコン、と最低限の設備が整えられている。

これについて、SCCは東京都の他女子大学学生寮と比べて寮室(個室)の面積が狭いが、一方で共用空間の割合が非常に大きいことが指摘されている(鈴木・元岡・桂,2012)。自分の個室のみにこもって過ごすのではなく、共有スペースを十分に活用することで快適な寮生活を送ることができる設計なのである。他者とのかかわりの中で成長するという理念を反映した設計になっているということを寮生自身が自覚することで生活への満足度も高まるものと考えられる。

寮規則・ルールの認知度

寮の規則・ルールをどの程度認知しているかについて、主な規則ごとに尋ねた結果がFigure8である。

Figure8では「知っている」と回答した割合(「十分知っている」+「まあ知っている」)が高いのは「門限に関する規則」と「ハウスの共有部分に関する規則」で、8割を超えている。ハウスの共有スペースのルールに関しては自分たちで話し合っているため、認知率も高いものと考えられる。しかしその他の規則は認知率が7割以下と、これら2項目に比べると低い。ゴミの出し方・寮費支払等の規則は、今後SCCを出て1人暮らしをするにあたって、必ず自分で理解しておかなければならない規則である。これらの生活の基礎として必要な規則は、SCCでの日常生活を通して主体的に理解していく必要がある。

人間関係

以下では寮内での人間関係について、相談をする相手、交流の実態、活発に交流をする相手の観点から分析する。交流の実態については2011年度調査(桂,2013)と2013年度調査(北澤・望月,2014)との比較を行う。

まず、Figure9では、「寮内で個人的な問題が発生した場合、誰に相談するか」を複数回答可として尋ねた結果である。

「保護者」が69.0%で最も多く、「寮生以外のお茶大生」が62.1%とそれに続いている。SCCの組織に関わりがある人の中では「SCC寮生」が最も高く58.6%、「学寮アドバイザー」*5がそれに続いて

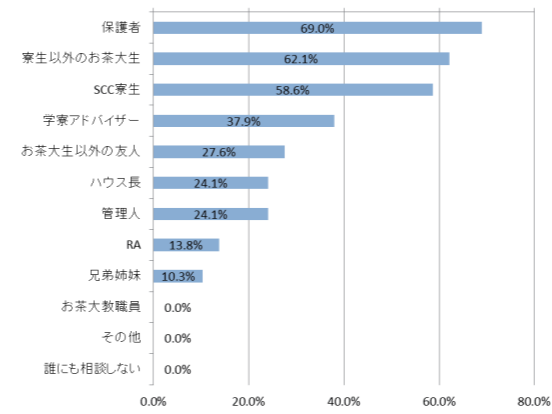


Figure 9 寮内で個人的な問題が発生した場合の相談相手(複数回答)

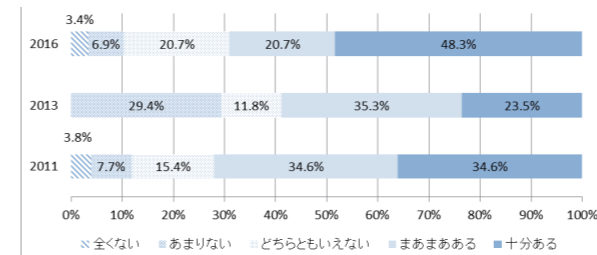


Figure 10 ハウスリビングなどの共有スペースで一緒に過ごす

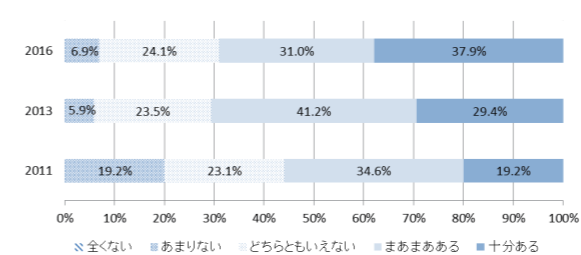


Figure 11 寮行事やパーティーなどを一緒に楽しむ

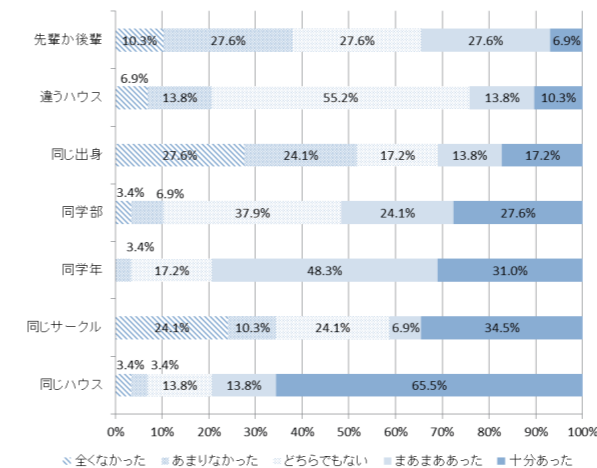


Figure 12 寮内でどのような寮生と交流しているか

37.9%を示している。2013年度より下級生のサポート・相談役として新設された、RA(レジデント・アシスタント)に相談をするという割合が13.8%と低く、これはSCCに関わりのある人の中で最も低い割合を示している。

RAは学部3年生4名で、同じハウスに居住している。各自の担当委員会で自らの経験を活かしてオブザーバー的役割として参加し、寮運営のサポートを行っている。各種行事にはなるべく参加し、下級生との交流を持つように意識して取り組んでいるものの、相談を受ける役割としてはまだ十分に機能できていないことが示された。

このことはRA自身も課題と考えており、2017年度からはRAが各ハウスの様子を把握するために巡回する「RAアワー」を開始した。これによってRAと下級生の交流を促進し、下級生に寄り添ったサポートを行うために現在活動中である。

次に、寮内の交流の実態について、過去の調査と比較した結果を以下に分析する。Figure10では「ハウスリビングなどの共有スペースで一緒に過ごす」については「とてもある」と回答した割合は48.3%と過去最も多い割合を示している。

次にFigure11では「寮の行事やパーティーなどを一緒に楽しむ」についてどの程度あてはまるかを尋ねたものである。「とてもあてはまる」と回答した割合は37.9%で、過去最も多い割合を示している。実際に、学修プログラムや寮祭等の、全員参加を必須としている寮行事の参加率は年々上昇しており、2016年度は行事の参加率は平均8割程度であった。寮内の交流は開寮以来、盛んに行なわれるようになっており、SCCという寮の文化として根付きつつあることがうかがえる。

続いて、どのような寮生とどの程度寮内で交流しているのかについて尋ねた結果がFigure12である。

「活発に交流している」と回答した割合が多いのは「同じハウスの人」が65.5%と最も多い。一方で、「先輩か後輩」(違う学年の人)、「違うハウスの人」はそれぞれ6.9%、10.3%と低い割合を示している。ハウスや学年の垣根を越えた交流はそれほど多くはないという実態が明らかになった。

このことは開寮当初から課題とされていたもので(耳塚,2013)、現在でも引き続いて課題となっている。2016年度10月に実施した「後期キックオフワークショップ」では違うハウスの寮生とも交流したいという希望が寮生の中から挙がり、寮生の主体的取り組み

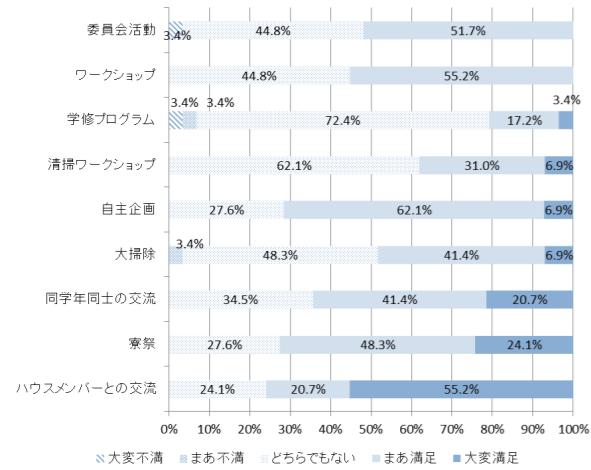


Figure 13 寮行事・活動の満足度

によってハウス間交流を企画し実施した。また学年を越えた交流に関しては、自主企画の交流イベントを実施している。しかしながら参加必須とはしていないため、参加率は5～6割程度に留まっている。学年を越えた交流を促進するため、自主企画への参加率を上げる試みを検討する必要がある。

これらの寮生の主体的な取り組みによる交流企画を継続して行っていくことで、ハウス・学年を越えた交流が自然とできる風土を寮内に作り上げていくことが期待される。

寮行事の満足度

Figure13では各種寮行事の満足度を尋ねたものである。

「大変満足」の割合が最も高いのは「ハウスメンバーとの交流」で55.2%であった。一方で「大変満足」「まあ満足」の割合が5割を下回っているのは清掃WS、大掃除、学修プログラムである。清掃ワークショップ・大掃除は清掃・備品委員会が中心となって行う行事である。ハウス内の清掃の方法をレクチャーし、冷蔵庫の中や排水溝など普段は掃除の行き届いていない箇所をハウスメンバーで協力し清掃に取り組んでいる。これらの清掃にかかわる行事は当日に欠席のハウスメンバーがいた場合、他のハウスメンバーの負担が大きくなってしまふことが不満な理由として挙げられていた。

また学修プログラムは、お茶の水女子大学の教員が講演を行い、約1か月後にハウスごと課題に取り組み学修成果を発表するというプログラムで、年3回行っているものである。寮生組織である学修プログラム委員会が中心となって、講演テーマ・講師の決定から当日の運営まで行っている。平成28年度は、第1

回に室伏学長の講演、第2回に生活科学部食物栄養学科佐藤助教授による栄養についての講演、第3回に生活科学部人間・環境学科元岡准教授による建築についての講演を行った。

学修プログラムの不満については、毎年似たようなテーマ設定になってしまうことや、「やらされている」という義務感を感じるという理由が挙げられていた。この改善のために2017年度は、寮生の意見を反映した形で実施できるよう、学修プログラム委員会にて学修プログラムのあり方の再検討を行っている。

SCCでは学生たちが自主的に考え、新しい取り組みをしていけるという特色がある。この特色を生かし、不満な点を改善すべく寮生の主体的な取り組みによって問題解決をしていくことが期待される。

考察と今後の課題

本調査の分析を通して得られた今後の課題について以下考察する。

- ① SCCで住まう意義を寮生本人が入寮前から理解する
本調査では、本人の希望というよりも経済的負担軽減のために入寮を希望したと考えられる寮生が一定数存在していることが明らかになった。また、入寮前にSCCの施設や生活についての情報を十分に理解しているとはいえない状況も明らかとなった。「ともに住まい、ともに成長する」という理念をもつ学生寮であることを学生自身がよく理解した上で入寮を検討できるように情報を周知し、入寮前にSCCについてよく調べさせる仕組みをしっかりと設定するなどの対応も必要であると考えられる。
また入寮後は、寮生に対してSCCで住まうことの意義を自覚させるために折に触れ説明の機会を設けることも重要である。現在、年に6回程度の各種ワークショップの際にSCCに住まう意義を学寮アドバイザーから寮生に直接伝える機会を設け、実践している。寮生の成長は、何よりもSCCで生活する本人がその意義を理解して生活することでこそ、達成されるものであると考える。

②下級生に寄り添った支援のできるRAへ

RA制度は、下級生の寮生活のサポートを目的として2013年度に開始したものである。RAは2年間の在寮経験を活かし、各委員会のオブザーバーとして委員会運営のサポートをしたり、RA自身で寮内の交流

イベントを企画したりするなど、積極的に活動している。しかしながら今回の調査では、寮内で問題が生じた場合にRAに相談する、と回答した割合は13.8%と低く、寮生の相談を受ける役割としては十分に機能していないことが示された。これについて、RA4名は同じハウスに居住しているため日常生活の場面で接触する機会が少ないことが原因として考えられる。2017年度から新たに実施した「RAアワー」によって、各ハウスを回り日常的な交流を実施することで、この点の改善が期待される。

③寮生自らの問題提起による課題解決

Figure11で示したように、SCCでの寮内交流の機会が「十分ある」と回答した割合は2016年度では37.9%と、2011年度調査の19.2%・2013年度調査の29.4%よりも増加している。また各行事の出席率も向上しており、寮生の意識の高まりがうかがえる。しかしその一方で、ハウスや学年の垣根を越えた交流は未だ少なく、開寮当初からの課題となったままである。2016年度に実施した「後期キックオフワークショップ」の中では寮生の希望によって、ハウス間の交流を行うイベントが企画・実施されるなど、主体的な取り組みによって問題を解決するために歩み始めた。また他にも、共有ラウンジでは24時以降は「静けさタイム」と設定することで騒がしい利用を控えるルールや、他ハウスへの出入りを24時以降は禁止するなどのルールは、寮生から問題提起がなされ、話し合いを経て決定されたものである。

このように、現状の寮生活で問題に抱えている部分は寮生自身により問題提起がなされ、寮生の主体的取り組みによってその問題が改善されていくことが求められる。現在寮内で実施している学生支援プログラムの中でも、「不満」であると回答した割合の高かった学修プログラムや大掃除等の行事についても、不満を述べるだけでなく、「どうすれば改善できるか」を寮生自身が考えその中で課題を解決していく必要があり、そのためのサポートが必要である。

【参考】SCCで生活していて良かったこと（自由記述抜粋）

- ・自分の所属するコミュニティが学科、サークル、地元、のほかにもう1つできたこと
- ・大学に入ってすぐ色々不安な時期に相談できる相手

がいたこと。また、SCCに入っていなかったら絶対に話すことすらなかったような他学年、他学部の人と知り合えたこと。

- ・設備が整っている点。普通の寮では電子レンジやコンロはあってもオープンが使えなかったり1口しかなかったりとい使い勝手が悪いことが多いと思われるが、SCCは5人でシェアハウスということもあり、共用部分も十分な広さや設備が整っている点がよいと思う。
- ・生活に不安な1年生前期にさみしい思いをせずにすんだこと、学部学科をこえてたくさんの友人ができたことがよかったです。SCCで出会ったひとたちとこれからも関わりたいと思います。
- ・1人暮らしでは絶対に身につけられないような力（協調性、思いやり、気を利かせる、配慮、気配りなど）を身につけられたことがよかったです。

注

- 1) SCCの寮費は月額30,000円である。(光熱費・インターネット費用は別途。)
- 2) お茶の水女子大学南門からSCCまでは徒歩5分程度。
- 3) 家具・家電のほかに食器や調理道具等の生活備品はある程度用意されている。
- 4) http://www.cf.ocha.ac.jp/student_support/j/menu/scc/j/top.html
- 5) お茶の水女子大学学生・キャリア支援センターに所属する職員である。寮生と大学との窓口となり寮運営のサポートを行っている。

参考文献

桂瑠以 (2013) 「学生寮調査報告—学生寮の生活環境及び人間関係に着目して—」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学教育機構紀要—』3 pp.30-42.
北澤泰子・望月由起 (2014) 「学生寮お茶大 SCCにおける活動実践と成果—2011年と2013年のSCC寮生への調査結果を比較して—」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学教育機構紀要—』5 pp.40-47.
耳塚寛明・桂瑠以 (2013) 「学生寮への教育的期待—お茶大 SCCの実践と課題—」『京都大学高等教育研究』19 pp.87-97
鈴木杏理・元岡展久・桂瑠以 (2012) 「女子大学学生寮における寮室と共用空間の構成」『高等教育と学生支援—お茶の水女子大学教育機構紀要—』2 pp.14-21.

2017年6月26日 受稿